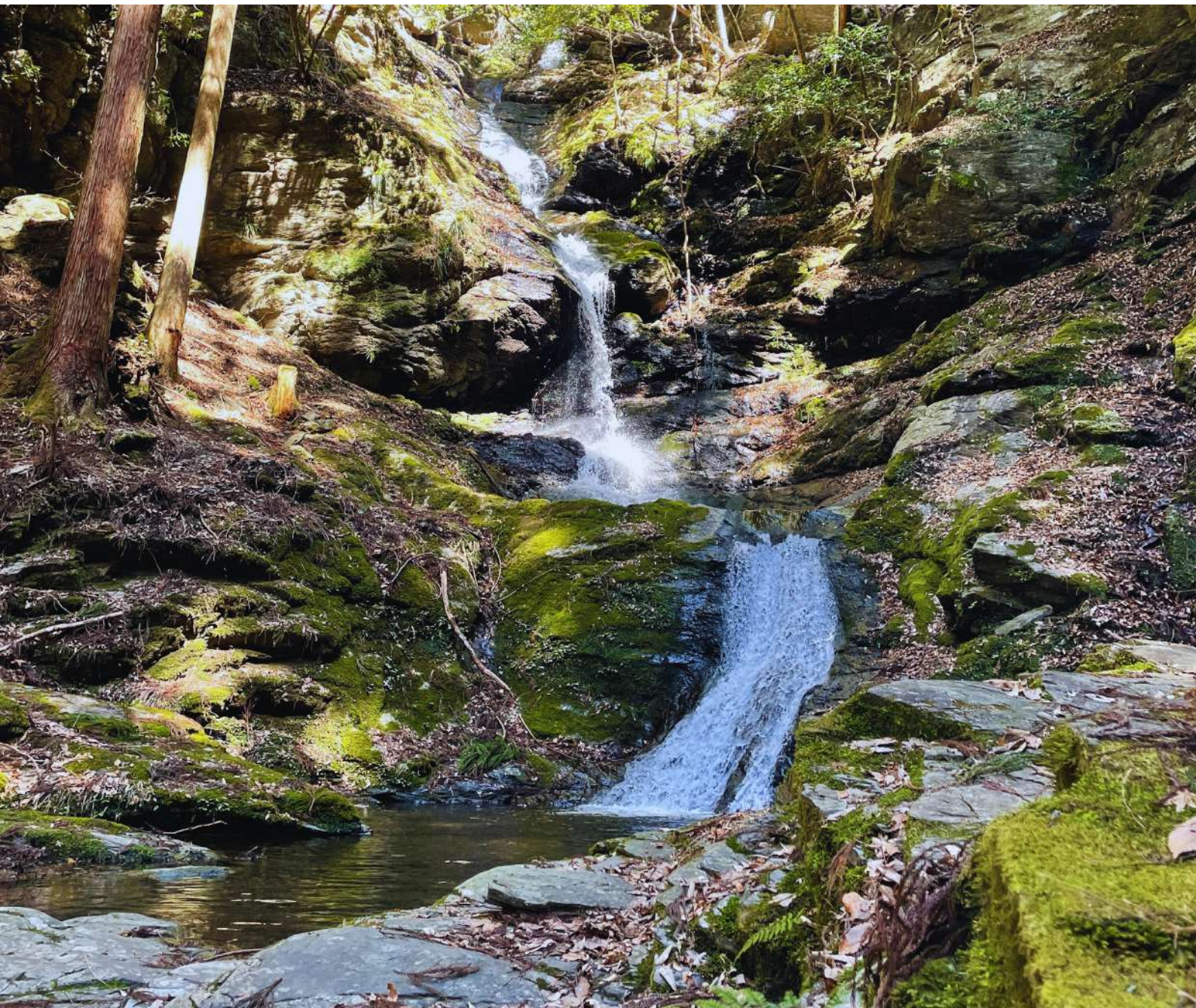


東吉野村



七滝八壺・夢淵・東の滝.....

1

ふるさと村・やはた温泉.....

2



ニホンオオカミ像・東吉野村民俗資料館...
きのこの館.....

3

4

東吉野の「水」



今回は奈良県の東部に位置する東吉野村を取材してきました。東吉野村の方々に話を聞くと、村の良いところは「水が綺麗なところですよ」とよく耳にしました。実際に東吉野村を散策すると、お話のとおり、魅力的なスポットがたくさんありました。まずは、「水」をテーマに、自然あふれる東吉野村の魅力を「奈の良」の読者の皆さんにお伝えします。

ななたきやつぽ 七滝八壺

東吉野村は滝が多い村です。その中で最も代表的なものが七滝八壺です。四郷川に架かる吊り橋を渡ると、すぐに最初の滝が目に入ります。滝の水に目をやると、とても澄んでいて綺麗だということがよく分かります。急な坂道を少し登ると、連続して流れ落ちる滝が見えてきました。私は、自然が創り出したこの素晴らしい景色にしばらく圧倒されてしまいました。

七滝八壺のある吉野杉の人工林に囲まれるこの一帯は、日本三大人工美林の一つであり、また、その水の清らかさと美しさが認められて、2008年に環境省が選ぶ「平成の名水百選」に選定されました。

案内して下さった東吉野村役場地域振興課の井上さんのお話によると、滝は7つなので、滝壺も7つしかありません。ですが、有名なことわざの「七転び八起き」になぞらえて、「七滝八壺」と呼ぶようになったそうです。この清らかな場所で深呼吸すると、不思議と心が癒やされ、とてもリフレッシュできました。皆さんもぜひ訪れてみてください。

ゆめぶち 夢淵

夢淵は、水の女神である罔象女神を祀る丹生川上神社中社の静寂、森厳、神秘の気の立ち満ちた霊境に位置し、高見川・四郷川・日裏川の3つの川が合流するところに紺碧の深い淵が形造られています。

この場所は、神武天皇とゆかりがあります。『日本書紀』によると、神武天皇は戦勝祈願のために丹生川上を訪れ、巖釜というお酒の壺をここに沈め、お酒に酔った魚の様子を眺めて吉兆の占いをされたという伝承のある淵です。この伝説は、「奈の良」第16号の檀原神宮に関する記事の中でも紹介していますので、興味のある方は、そちらもぜひご覧ください。

朱塗りの蟻通橋からの景色を楽しむことも魅力的ですが、神秘的な紺碧の淵のほとりまで下りることができるので、夏のシーズンは夢淵での水遊びがお勧めです。



ひむかし 東の滝

夢淵の近くの日裏川が高見川に注ぐところには、2つに分岐して流れ落ちる東の滝があります。かつての吉野離宮の東にあるといわれることから、この名が付けられたそうです。

東の滝の前には注連縄が張ってあり、神秘的な雰囲気を感じます。実は、この東の滝には、龍神が棲むといわれており、別名「龍神の滝」とも言われています。

欧米では、龍は火の動物という考え方が一般的です。水に龍が棲むという考え方はとても興味深いです。

ちなみに、丹生川上神社では、初穂料300円を納めることで「龍玉」という穢れを取り除いて開運に導いてくれる玉を受け取ることができます。こちらは、心の願いを玉に込め、穴に息を3度吹き込んで滝に投げ入れると、龍神が願いを叶えてくれるといわれていますので、立ち寄った際には、ぜひお試しください。





ふるさと村

続いて紹介するのは、ふるさと村です。こちらは、キャンプ場や宿泊施設をはじめ、食堂、温泉、川遊び場など、東吉野村の豊かな自然を満喫できる施設です。

ふるさと村施設長の市川さんのお話によると、この施設は元々、1912年に建てられた旧八幡小学校の校舎でしたが、1989年に「ふるさと村」という宿泊施設として生まれ変わりました。その後、やはた温泉などが併設されて、人々の憩いの場として、多くの方々に利用されています。

ビジターセンターは、100年以上の歴史があるノスタルジックな校舎を改造したもので、中には趣のある食堂や、東吉野村の観光情報を確認することができます。センターの隣にあるふるさと会館は、家族連れやグループが使える宿泊施設です。和室と洋室の部屋があり、談話室で楽しい交流ができます。

また、テントサイトが四郷川の川辺のすぐ近くにあり、キャンプもできます。夏に友だちとバーベキューをした後で川遊びして、夜になったら線香花火をするという私の憧れていた夏休みを体験することができそうです。

ふるさと村では、春は山桜、夏は涼しい溪流、秋は楓と銀杏、冬は霧氷など、四季折々の美しさが楽しめます。しかも、近くには「七滝八壺」や「魚止の滝」などの名瀑や、伊勢辻山や国見山などの山がありますので、ハイキングをする人の拠点にもなります。溪流と深い緑に囲まれて、ゆったりとしたスローライフを体験したい方にはおすすめの施設ですので、ぜひお立ち寄りください。



やはた温泉

最後に紹介するのは、やはた温泉です。1995年に開設されたやはた温泉は、東吉野村最初の公設温泉です。四郷川沿いにあり、温泉に入りながら溪流と美しい山々を眺めることができるので、疲れを癒すのに最適だと思います。また、山々には、桜や楓の木があり、季節によって違う景色を楽しむことができます。

こちらの温泉には、木の匂いが薫る古代ひのき風呂と、ジェットバスが備わっている天然御影石の岩風呂があります。市川さんの自慢は、古代ひのき風呂で、大きな特徴は古代^{ひのき}檜という貴重なヒノキで造られているという点です。古代檜とは樹齢千数百年を超える巨木のことで、その木は精油成分を多く含んでおり、血行・新陳代謝を促進し、森林浴作用があるそうです。毎週水曜日に男湯と女湯が入れ替わるので、週に2回足を運べば、両方のお風呂を楽しむことができます。

私は実際に岩風呂に入ってみました。温泉の泉質が弱アルカリ性ということで、肌に馴染みやすかったです。渓谷の景色を楽しみながら温泉に入れることができ、本当にリラックスできました。お風呂から出たくなかったぐらい居心地がよかったです。

溪流や滝、温泉など東吉野村の雄大な大自然に思い切り触れあうことができ、心がリフレッシュしました。あなたも、「水が綺麗」な東吉野村の大自然を満喫しませんか？

ギエム・ロード

山里の魅力を旅する：東吉野村

東吉野村は、高見川などの美しい清流と高見山をはじめとした深い山々に囲まれた自然のあふれる村です。続いて、「山」をテーマに、自然豊かな東吉野村の魅力とかつての山の暮らしを「奈の良」の読者の皆さんに紹介します。奈良の山里を満喫しながら旅に出かけませんか。

山の生き物を探索する：ニホンオオカミ像

東吉野村ではどのような生き物が見られると思いますか。高見川の中を覗き込むと川魚が泳いでいて、目を閉じて耳を澄ませば山鳥の音が聞こえます。しかし、かつてこの土地の王様であった存在は時の流れと共に姿を消してしまいました。それは、東吉野村に生息していたニホンオオカミのことです。

東吉野村は、ニホンオオカミの最後の捕獲地として有名です。東吉野村役場の方からのお話によると、1899年に、ロンドン動物学協会会長が、東アジアでの動物学の探査を企画し、1904年に、アメリカのスタンフォード大学を卒業したばかりのマルコム・プレイフェア・アンダーソン氏が探査員として来日しました。本州中央や東北、北海道での調査後、同年12月29日に、名古屋に到着しましたが、ネズミ以外の動物を中々捕まえられなかったため、奈良で探査することを決めました。

奈良に到着後、多くの狩猟が行われているという情報のあった鷲家口（現在の東吉野村小川）へ向かうことにしました。そして、滞在して10日目に、3人の村人がニホンオオカミの死骸をアンダーソン氏のところに持ち込み、交渉の結果、8円50銭（現在の価格でいうと約16万円）で売り渡したそうです。このニホンオオカミが日本で捕獲された最後の一匹になるとは当時は想像もしていなかったと思われます。

最後に捕獲されたニホンオオカミは、若い雄で、現在、ロンドン自然博物館に頭骨と毛皮が保存されています。その大きさは、頭と胴が91.4cm、尾が34.0cm、耳が8.6cmと記録されています。ちなみに、アンダーソン氏は、東吉野村での滞在中にイノシシ、シカ、カモシカなどを収集したと記録されています。

そのような経緯から、かつて東吉野村の山々で吠えていたニホンオオカミの存在にかすかな夢を託して、広く自然の愛護を願う村の象徴として、1987年、奈良教育大学教授の久保田忠和氏の製作によるブロンズ像が村に設置されました。近くで見ると、まるでニホンオオカミがいまも吠えているかのように見えます。是非とも、山と共に生きていたニホンオオカミの歴史を身近に感じるスポットとして、東吉野村にあるニホンオオカミ像に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



山里の歴史に触れる：東吉野村民俗資料館

次に向かったのは、東吉野村民俗資料館です。明治7年に建てられた旧小川第二小学校の校舎を活用しており、小学校時代の可愛らしいタイル壁の水飲み場と趣のある立派な木材造りが印象に残ります。ここは東吉野村の村民の歴史と生活について詳しく学べる施設となっています。

元々学校だったということもあり、かつての教室を展示スペースとして活用していて、全部で4つの展示エリア（①東吉野村の風土と歴史、②山の仕事、③昔の暮らし、④まつり）があります。展示品の中で興味深いと思ったものは、唐臼（カラウス）です。



唐臼は、伝統的な餅づくりに使う機械です。2人で操作する機械で、1人が左側のペダルを全力で踏んで杵を上げ、その間にもう1人が細めの棒で餅の形を整えます。そして、片方がペダルを放すと、杵が落ちる仕組みです。

この作業の繰り返しによって、お餅が作られたそうです。昔のやり方は時の流れにつれ中々見えなくなりましたが、山の生活、そして日本文化の中の大切な習慣なのではないかと思えます。

山里料理を満喫する：きのこの館

最後に訪問したのは、「きのこの館」というきのこ専門料理店です。外観を見ると、大きなきのこの看板が目に入り、きのこ料理店であることがとてもよく分かります。お店へ向かうと、店長さんの大前博行さんがとびっきりの笑顔で迎えてくれました。まずは、お店のことや東吉野村の暮らしについて、インタビューをさせていただきました。



1. こちらのお店を始めて何年目ですか。何故東吉野村でお店を始めようと思いましたか。

先代の方はここで約20年ほどお店を営んでいましたが、2代目の私はこちらのお店を引き継いで1年が経ちます。私は県外からの移住者で、以前までは東大阪で鉄道関連のお仕事をしていましたが、田舎暮らしときのご栽培に興味があり、先代の方からお店を引き継ぐこととなりました。

2. お店では何種類のきのこを取り扱っているのですか。

しめじ、しいたけ、ひらたけ、ヌメリスギタケ、エリンギなど約10種類で、全て自家製です。

3. 観光客は良く来られますか。ピークの季節はいつ頃ですか。

様々な国から来られています。これまでにフランス、韓国、中国、ベトナムなどのお客さんが多く来られていて、ピークの季節は桜の時期です。つい先ほどもフランスからの観光客の方が来られていました。

4. 東吉野村はどんなところだと思いますか。

自然が豊かで、フレンドリーな方が多いところですよ。移住してきた外国人の方も多くて、陶芸をやっているアメリカ人や、オーストラリアから来られた方もいます。

5. 外国人や県外の方が東吉野村を訪れたとき、ここには行ってほしい、これは知ってほしいといったことがあれば教えてください。

東吉野村の歴史、特に天誅組について知ってほしいです。幕末の志士であった天誅組が、幕府から逃れ、最後にたどり着いたのが現在の東吉野村です。村には、慰霊碑も建てられています。



インタビューの後、きのこ鍋定食をいただきました。鍋定食には、きのこ炊き込みご飯と3種類の漬物が付いています。鍋にはしいたけ、しめじ、ひらたけなどたくさんの種類のきのこがぎっしりと入っています。お肉や豆腐などの具材がないので味が薄いかもしれませんが、濃厚な味わいでびっくりしました。自炊するとき鍋料理をよく作るので、私も美味しいきのこ鍋を作りたくなりました。

世界中の様々な国からお客さんが来ていて、村の方々にも愛されている老舗、「きのこの館」。店員さんの温かいおもてなしを受け、まるで親戚の家にいるかのように、会話に夢中になって時の流れを忘れられる空間でした。東吉野村に来た際には、ぜひ「きのこの館」を訪れて、ここでしか味わえない美味しい山の幸を満喫してください。



『奈の良』は、外国人の目線で見えた奈良県の魅力を県民の方々や外国から来られたお客様に紹介するため、私たち奈良県庁国際課の国際交流員が奈良県で見つけた魅力や面白いことについて自ら取材し、記事にしたものです。本誌が奈良県に興味を持つきっかけや外国人が感じる奈良の魅力を発掘する手がかりとなれば嬉しく思います。



ギエム・ロード

吉野杉の奥深い森の木漏れ日に流れる澄んだ川、太陽の光で満たされた夢淵の紺碧の水、強い日差しに眩しくなった白い石の川のほとり、東吉野村の景色が本当に印象に残りました。それに、村の方々の優しさにも感動し、皆のおもてなしで東吉野村を満喫できました。

今回は「関西のmatterホルン」と呼ばれる高見山も登ってみたいですね。あなたも、東吉野村を散策してみませんか？

サマンサ・ジョンソン

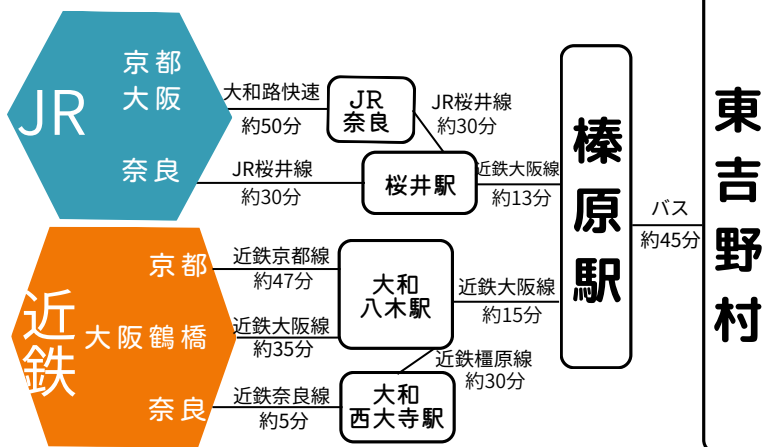
今回取材した東吉野村はアイデンティティーがはっきりしていて、PRの長所である温泉、山、桜、そしてニホンオオカミを全部合わせて誕生した公式キャラクターのひよしちゃんは可愛くて惹かれるポイントです。平成25年に誕生したこのキャラクターは今も活躍されています。

旅の締めとして、ひよしちゃんのぬいぐるみや、東吉野村の名物で蕎麦うどんに近い「たあめん」などを買って帰るのはいかがでしょうか？

アクセス



交通機関を利用する場合



車を利用する場合

大阪から：約1時間40分
 京都から：約1時間50分
 奈良から：約1時間30分 } 東吉野村まで

Special Thanks

今回の取材にあたり東吉野村役場地域振興課の井上知彦さん、教育委員会事務局の井上穂乃花さん、ふるさと村施設長の市川健一さん、きのこの館の大前博行さん、御協力いただいた方々にお礼を申し上げます。

『奈の良』 *Na no Ra*

発行元：奈良県知事公室国際課
 発行：令和5年6月
 本誌に関するご意見、ご質問等は
 こちらへご連絡ください。

〒630-8501
 奈良市登大路町30
 奈良県知事公室国際課
 TEL: 0742-27-8477
 FAX: 0742-22-1260

